

2018年12月5日

豊富町 エネルギー地産地消のまちづくりに関する 連携協定の締結について

12月5日、北海道ガス（所在地：札幌市、社長：大槻博、以下：北ガス）は、豊富町で産出されている天然ガスの有効活用をはじめとした「エネルギー地産地消のまちづくり」の実現に向けて、豊富町と協力・連携して取り組むことを目的とした連携協定を締結いたしました。

北ガスは、地域特性に合ったエネルギー資源を活用し、エネルギーと環境の最適化による快適な社会の創造に向けて、「総合エネルギーサービス事業」の展開を進めてまいります。

連携協定の概要については、別紙をご参照ください



(写真右から) 豊富町工藤栄光町長、北ガス代表取締役社長大槻博

以上

【参考】豊富町について

- 人口：3,941人(2018年10月時点)
- 面積：520.69平方メートル
- 特色

豊富温泉

豊富温泉は温泉水に石油分が含まれる世界にも希少な温泉として、昔からやけどや皮膚病に効能が高く「日本最北の温泉郷」と呼ばれており、近年は尋常性乾癬やアトピー性皮膚炎の療養湯治湯として全国から多くの湯治者をお迎えしています。

酪農

豊富町は、牛が約1万4千頭飼養されている酪農が基幹産業のまちです。北海道の中でも最北に位置する豊富町の冷涼な気候と広大な牧草地の中で、地元の酪農家が搾った新鮮な生乳から自然の風味豊かな「北海道豊富（サロベツ）牛乳」が製造されています。

豊かな自然

利尻礼文サロベツ国立公園の一部であるサロベツ原野が広がっています。高層湿原として日本最大の広さを持ち、オオヒシクイなど渡り鳥の中継地、タンチョウの営巣地として2005年にラムサール条約の登録湿地として指定されています。



豊富町と北海道ガス株式会社との連携協定の締結について

連携に至る経緯

「日本最北の温泉郷豊富温泉」の源泉と共に産出される地域の貴重なエネルギー資源である天然ガスは、熱量・成分が良質なため、豊富町として企業誘致等により積極的な天然ガス利用による地域振興を行ってきたが、産出される多くの天然ガスが未利用であることから、有効活用が出来ないか各関係機関に協力を求め、協議を進めてきたところ。

一方、北海道ガスでは、分散型電源である天然ガスコージェネレーションシステムの普及拡大や北海道内の各地域において地域特性に合ったエネルギー資源の活用に取り組んでいるところ。

そうした中で、豊富町の課題解決に対する想いと北海道ガスの取り組み、双方の方向性が合致したことから、豊富町産天然ガスの有効活用をはじめとした「エネルギー地産地消のまちづくり」の実現に向けて、連携して進めていくことで合意した。

豊富町と北海道ガスが連携して目指す「エネルギー地産地消のまちづくり」の概要と将来像

- (1) 未利用天然ガスの有効活用方法の検討及び推進
- (2) 地域に賦存する再生可能エネルギー活用の検討及び推進
- (3) 豊富町の魅力を最大限に活かした・災害に強いまちづくりの推進

< 将来像 >

